

山ノ内町立東小学校6学年

山ノ内限定！思い出スタンプラリー

山ノ内町立東小学校6年生は、これまでにリンゴの栽培や雪白舞づくり、楽器「コカリナ」の演奏など、地域と関わる多様な体験を重ねてきました。6年生の総仕上げとして取り組んだESD活動では、「for山ノ内町」をテーマに掲げ、自分たちにできることを模索する中で、「山ノ内町の魅力をたくさんの人に知ってもらいたい」という共通の願いを見出しました。こうして、「山ノ内町を巡るスタンプラリー」の企画・制作というプロジェクトが始まりました。

地域資源を探るフィールドワークと視点の転換

活動の第一歩として、児童たちは自らの足で町に出かけ、山ノ内町の観光スポットや自然、商店などを実際に訪ね歩きました。見て感じたことを地図にまとめながら、地域の魅力を再発見することができました。ところが、制作に取りかかる段階で「誰のためのスタンプラリーか」という課題に直面します。

観光客の声や卒業生からの動画メッセージを通じて、来訪者の多くが「癒し」や「温泉」「自然」を求めていること、自分たちの視点だけでなく「相手のニーズ」を考慮する必要性を痛感します。この気づきが、よりよいスタンプラリーづくりへの原動力となりました。

グループごとの工夫と協働

児童たちは6つのグループに分かれ、それぞれの分野に応じた役割を担いました。観光グループはスタンプ設置場所を選定し、観光地の紹介ポスターを作成。外国人観光客にも伝わるよう、翻訳ソフトやALT(外国語指導助手)の協力を得て英語版の掲示物も用意しました。

グルメグループは町内の飲食店に焦点を当て、人気メニューやおすすめ情報を日本語・英語で紹介。イラストや装飾にも工夫を凝らし、子どもや外国人にも親しみやすい内容に仕上げました。

自然グループは志賀高原などの自然の魅力を伝えるため、写真中心のポスターを作成。中国語が得意な仲間の協力により、中国語による情報提供にも挑戦しました。

スタンプグループは、消しゴムを用いた手作りスタンプの制作に取り組みました。デザインは各スポットの特徴を反映させたもので、学校にあった地元産の木を持ち手に活用。インクの写りや耐久性、紛失防止のためのチェーン装着など、細部にまでこだわったものとなりました。

景品グループは、参加者に地域の思い出を持ち帰ってもらうため、木に焼きごてで模様を描いたキーホルダーを制作。木の角を丁寧に磨き、触り心地にもこだわりました。

レイアウトグループはスタンプ台紙や地図のデザインを担当。背景に山ノ内らしい風景を描き、観光・グルメグループと連携しながら多言語表記やQRコードの導入なども行いました。



地域との連携と実践への展開

各グループが進行状況を共有しながら意見を出し合い、役場の観光課の方々からの助言を受けつつ、スタンプラリーを形にしていきました。こうして完成した「山ノ内限定！思い出スタンプラリー」は、2023年12月1日に実施を開始。実際に町で活用され、地域の人々や観光客に楽しんでもらうことができました。



未来への展望

この取り組みを通して、児童たちは地域の魅力を自らの手で調べ、表現し、発信することの喜びと責任を体験しました。また、相手の立場や関心に寄り添う視点を育む中で、「伝えること」の奥深さも学びました。今後も、地域への愛着と誇りを胸に、自ら考え行動する力を育みながら、持続可能な社会づくりに向けた学びを広げていきます。